DESIGN WORKS

岡山市北区出石町／町紋、ポスター、ステーショナリーなど

ビジュアルデザインで都市の心を変える

── これから必要な都市計画の概念とは ──

田中雄一郎／グラフィックデザイナー、都市計画家（自称）

ここ数年で岡山市中心部にも高層マンションが林立してきた。ル・コルビジェが提唱した「300万人の現代都市」が一世紀のときを経てようやく岡山にも辿り着いたのだろうか。市場経済は最高利潤を追求しながら進んでおり、その都市の姿は市場経済を反映させる。モータリゼーション化が進めば郊外型になり、少子高齢化になれば都心型に回帰しつつある。市場経済は人間の合理性に比例して動き、そして時代が進むにつれ不合理なものは淘汰される。これは自然の流れであり、銃が普及して刀は要らなくなったように、何も現代に始まった訳ではない。しかし都市には先人から連綿と受け継がれてきた歴史や伝統、風土や記憶などの文化が根付く。それらを次世代へ引き継ぐことは我々の責務であろう。

正直近代以降の都市計画は成功しているとは言えない。不思議と専門家もそう言っている。資本主義と縦割り行政では限界があるのだろう。全国の都市計画マスタープランも中心市街地活性化も右へ倣えでほとんどが形骸化している。区画整理事業や再開発事業などで面と点の整備は出来たが、政策や金融資本優先で点と点を結ぶソフト面は軽視されてきた。本来都市計画は体系化された理論と方法に基づき、哲学や歴史学、経済学、政治学や法律学、物理学や化学などの学問に加え、創造性と想像力、そして人間の感情を踏まえて行われなければならない。これまでの都市計画は学者や専門家が法律と理想に基づき、主に机上の論理だけで考えてきたように思う。しかし都市は生き物である。都市には煩悩を抱えた人間が住んでいる。理想や正当な論理だけで統制できる訳がない。

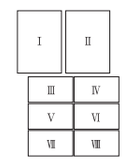
岡山市北区出石町の町のロゴマーク＝町紋をデザインした。現時点では非公式ではあるが、出石町の主に商店の経営者で構成されたまちづくり任意団体・出石小道（代表・御領園美耶子氏）とともに取り組んだ。
出石町は日本三名園の一つ岡山後楽園の門前町であり、大正時代や昭和初期の和洋混在のレトロな建物が建ち並ぶヴィンテージな町である。また岡山城などの名勝史跡や県立美術館、博物館、夢二郷土美術館などの文化施設からも程近く、画家・国吉康雄の生誕地でもある。
町紋は出石町町域の一部をモチーフに、「出石」という漢字を表現している。国吉康雄の絵画から着想した多色の色使いは、町のにぎわいや住宅と商店、和洋風の建物などが混在している様子を表した。
町紋の狙いは二つある。一つは自分の住む町に対して愛着を感じ、誇りを持ってもらい、出石町が一つにまとまること。町紋は家で言えばいわば家紋と同じある。家紋は平安時代に自分の牛車に家のしるしとして、鎌倉時代からは合戦の時の敵味方の区別をつけるために旗印として使われていた。つまり自分の所有財産や帰属意識の証として使われている。町紋があることで、この街は自分の街であり、自分はこの街の住民である、ということを一人ひとりが排他的でなく誇りを持ち、自覚するだけで街の秩序や文化力は向上するのではないだろうか？また町紋という旗印の下、「出石町」として一体となって発信していくことで、より強固な発信力となるのではないだろうか？
二つ目は出石町の魅力をより多くの人に伝え、来訪してもらうきっかづくりだ。町の価値や潜在性を視覚的に表現できるマークがあることで、広報活動がしやすくなる。今回町紋と合わせて出石町界隈のお店などを掲載したまちあるきマップやポスター、ステーショナリー、缶バッジ、ラック、提灯なども製作した。それぞれに町紋をあしらうことで独自性や統一感も出て認識してもらいやすくなり、ブランドイメージの向上に繋がる。

これら二つが有機的に結びつけば、住民の間でも社会的にも出石町の価値を共有することができる。ビジュアルデザインの効力は見た目や形をきれいにできるだけではなく、人の心までもつなぐ（共有する）ことができる点にある。これは建築や土木主体で論じられてきた従来の都市計画に欠如していた点ではなかろうか。デザインで都市に魂（感情）を入れる。都市計画は量的な解析やサイエンスだけで論じてはいけない。住民の質と社会的な評価が上がれば、景観やコミュニティはおのずと良くなり都市としての質は上がる。そして出石町のように小さな町単位で質を上げていけばその集合体である県や国の質も向上する。持続可能でもあるこの図式こそが今後の都市計画に不可欠な概念ではないだろうか。先号でも述べたが私は都市計画の一環としてデザインの仕事を始めた。前職は都市計画コンサルタントであるため、一朝一夕に成果が出ないことは承知している。この出石町もまだ道半ばである。都市というやっかいな生き物とこれからも対峙を続けたい。

AD・D／田中雄一郎　ラックデザイン／盛田健（盛田建築製作 一級建築士事務所）　CL／出石小道

田中雄一郎／Yuichiro Tanaka　www.quadesign-style.com
QUA DESIGN style（クオデザインスタイル）代表

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子とともにQUA DESIGN style設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、教育・医療機関、公共施設、美術展、交通、建築・建設、農業、アパレル、町など様々な分野のブランディングを手掛ける。主な仕事に岡山大学シンボルデザイン、倉敷市立短期大学ロゴマーク、福武教育文化振興財団CI、ルネスホールVI、宇野バス、岡山後楽園バスVI、まび記念病院、倉敷紀念病院HI、出石町VI、野の花農園プロモーションなど。東京TDC賞PrizeNominee、JAGDA賞ノミネートなど。共著に「ロゴデザインの現場−事例で学ぶデザイン技法としてのブランディング」（MdNコーポレーション）



Ⅰ プロモーションポスター［岡山後楽園編］　Ⅱ プロモーションポスター［岡山県立美術館編］
Ⅲ フライヤーを入れるラック　Ⅳ イベント時に点灯した提灯　Ⅴ オリジナル封筒、便箋、ハガキ（販売中）
Ⅵ オリジナル缶バッジ　Ⅶ 町紋の使用方法を定めたコンセプトブック　Ⅷ 町紋制作記念として配布した吉備だんご